

挨拶について

(社)日本 ITF テコンドー協会 理事長 岸玄二

おはようございます。

大会の開催にあたり、実行委員長の神吉実行委員長、並びにご協力いただいていますスタッフの皆さま、皆様のご尽力があって大会を開催することができます。とても感謝しております。ありがとうございます。

今日も心の在り方についてお話をさせていただこうと思います。

皆さん挨拶はできますか？

挨拶は大事だと思いますか？大事だと思う方は小さくで良いので手を上げてください。
(過半数が手を上げる。)

では嫌いな人に挨拶できますか？

今日は基本的なことですが挨拶についてのお話です。

大事かどうかと言いますと、どちらでも良いです。

それはあなたがどう生きていきたいのかということによって決まってきます。

我々がテコンドーを通じて何を教えたいのかと言いますと、あなたは変われることを教えたいと思っています。もっと言えば正しい自分の変え方を教えたいと思っています。

そのために必要な考え方が3つあります。その考え方を元に挨拶の必要性についてご説明させていただきます。

まず一つ目の考え方からご説明いたします。『行いには心が伴う』という考え方です。

一般的な人間の行動は心から行動が生まれます。例えばやる気になったから勉強をする、などです。しかし我々は行いを繰り返すことでそれに伴う心を身に付けようとしています。

例えば道場においてなぜ道着を正しく着るのでしょうか、礼を正しく整った形で行うのでしょうか。それは整った行いを繰り返すことで整った心を身に付けようということです。

では挨拶はどのように行うべきでしょうか？

自分がどのようになりたいのかを考えれば良いかと思います。元気な挨拶は心も元気な人へと変えていくでしょう。

人間が試されるのは上手くいかない時です。上手くいかない時にその物事をどう捉えるか、前向きに捉えるのか、後ろ向きに捉えるのかであなたの人生は大きく変わることでしょう。

ここまでは子供にも分かるようにお伝えさせていただきました。

ここからは少し難しいので大人向けのお話になります。

次の考え方ですが、人間とは何かという考え方です。

皆さんは好きな人、嫌いな人、あると思います。しかしそれはあなたが好きだと思いたいから好きに見て、嫌いと思いたいから嫌いと見ているだけです。ものの見方によって世界の見え方は大きく異なります。

私の考え方は人間とは人の形をした鏡だという考え方です。

例えば指導者に対してよくお伝えさせていただくのですが練習中にダラダラしている方やお話を聞いていない方がいるとしましょう。テコンドーに限らず指導者と言われる方は強い口調でダラダラしないように、しっかりと話を聞くように指導するかもしれません。

それはそれで良いこととも言えます。当然のことです。しかしテコンドーを通して”変わる”ことを教えたいと思う中で、この行いは相手を変えているだけということになります。

しかし相手の姿が映しだされた自分と捉えることで物事がどう見えるかと言いますと、単純に自分がつまらない人間なんだというだけです。自分の指導がつまらないから相手がダラダラしているというだけです。なので目の前の状況を変えようと思うのであれば自身を変えるしかありません。

では挨拶からその人の何が分かるかと言いますと、相手との向き合い方が分かります。その人とどう向き合っているのかということです。ここで先ほどの鏡の考え方を入れてものごとを見てみるとどういうことが言えるのでしょうか。

それはそのまま自分自身との向き合い方が分かるという事です。

冒頭に”嫌いな人に挨拶できますか？”と伺いましたが、出来ないということはどういったことが言えるのでしょうか。

それは自分の嫌な所は見ないという事です。

そうなる例例えば自分が人に認められたいと思った時に自分の良いところを大きく見せたり、逆に上手くいかない時には自分のことを棚に上げて相手のいないところで言いたい放題ということが起きやすくなっていきます。本来であれば自分の悪いところに気付き、それを改善していくことがあるべき姿のはずです。

最初に戻りまして挨拶が大事であるかどうか、それはあなたがなりたい自分というもの

を持ってそれになろうとしているかどうか次第です。

この組織が何を願っているかと言いますと、皆さんがなりたい自分になれますようにと願っています。そして私はその組織の代表として皆さんに必要であろうことを渡していけたらと思っています。

一度自分がどうなりたいのか？どう生きていきたいのかを考えた上で、必要だと思えば是非取り入れてみてください。

私からは以上です。

ありがとうございました。

2023年6月25日

第27回東海テコンドー選手権大会にて